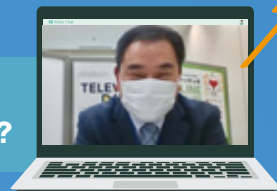


DXで今までと何が変わるんだろう？

with コロナ時代を切り拓く

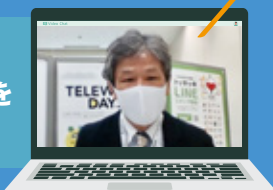
デジタルトランスフォーメーション Digital Transformation とは？

新潟県 産業労働部
創業・イノベーション推進課
しんば ゆういち
真保 裕一さん



新潟県におけるDX推進のポイントは？

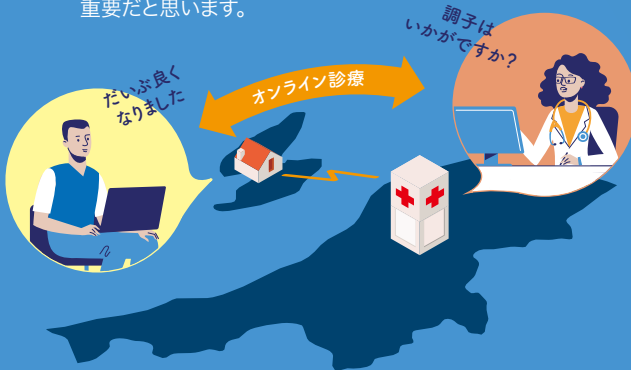
新潟県 知事政策局
ICT推進課 (取材当時)
やまもと みさひこ
山本 幹彦さん



ICTを活用し、より良い働き方・暮らしを実現するDXとは？

DXは「デジタル・トランスフォーメーション」の略で、直訳すると「デジタル変革」です。DX という言葉は2004年にスウェーデンの大学教授が提唱した概念で、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」ことを意味します。わかりやすく言うと、「ICTを活用して、暮らし方や働き方をよりよくする」ということでしょうか。

新潟県は広く、中山間地や離島もあります。さらに少子高齢化や人口減少も進んでいます。しかし、DXによりドローン宅配や無人バス、オンライン診療などが実現すれば、田舎に住んでいても都会と同じようなサービスを受けることができ、都会と同じように働くこともできます。このように、デジタル技術を活かしてより暮らしやすい、働きやすい社会をつくっていくことが重要だと思います。



ICTは使いづらいというイメージ

2000年代に入ってから20年経った今でも、日本におけるICTの活用は、他の先進国に比べて遅れています。この20年間、デジタル化が進まなかった理由としては、「デジタル化がなぜ必要なのか？」への理解が浸透していなかったことが挙げられます。その影響で、今でも社会には「ICTは高価で使いづらい」と考える人がいます。

ICTに対するイメージを変えたい

しかし、現在は無料アプリからサブスクリプションまで新たなサービスが登場しており、ますます便利になっています。昔は高価だったPOSレジ^(※)も、今は iPadがあれば代用できます。そこで新潟県では、ICTについて情報が少なく不安を感じている人に「ICTを利用すると便利である」というイメージを持ってもらうことがポイントだと考えています。DX推進のためには、ICTに対するイメージを変えていくことが重要なのです。

得意を活かしてDXを推進してほしい

これからICTの活用が進んでいく社会を生きる皆さんには、ICTを使うのが苦手な人の気持ちを理解しつつ、ぜひ周りの人もICTを使えるように助けてあげてほしいです。ICTを使うのが苦手な人は、ICTに不安や恐怖を感じているかもしれません。その気持ちを理解しつつ、お互いが得意な分野を活かしてDXを推進してほしいと思います。また、ITエンジニアを目指すみなさんには、多様な分野のDXに対応できるよう、今から色々なことに興味を持ち続けてください。

※POSレジは、売上情報や顧客情報を管理、分析できるレジのことです。

Interview 企業のDX化に携わる、渋谷さんに聞きました！



フラール株式会社代表取締役会長
新潟ベンチャー協会 代表理事
長岡高専 客員教授
しぶや しゅうた
渋谷 修太さん (32歳)
【出身校】
長岡工業高等専門学校
筑波大学理工学群社会学類

Profile

長岡高専在学中、仲間たちと夢を叶えたいと起業を志し、経営を学ぶために筑波大学に編入学。スマートフォン向けアプリに将来性を見出した23歳のとき、アプリ分析を主事業とするフラール株式会社を創業。創業時に4名だった従業員も100名を超え、新潟が誇るIT企業の一つとなっている。現在は代表取締役会長として、若手起業家の育成にも尽力している。

こんな事例があったよ！ 紙の説明書をデジタル化

まずDXは既に存在している企業で起こるものです。今までのやり方があるって、それをデジタルに置き換えて新しい価値を生み出す。その変化がまさに「デジタル・トランスフォーメーション」です。ITベンチャー企業などでは最初からデジタル化されているので「トランスフォーメーション(変革)」とは言えません。

フラールでは、アウトドア用品をつくっている株式会社スノーピークさんと一緒にアプリをつくったことがあります。そのアプリでは、アウトドア用品の購入だけでなく、取扱説明書を読んだり修理を依頼したりすることができます。紙の説明書では暗いところで読めませんが、アプリなら夜のキャンプ中にも読むことができます。お客さんにとってより便利なものになっています。

これらのように、今まであるものをデジタル化することでお客さんの体験や事業の仕組みが変わることがデジタル・トランスフォーメーションですね。その結果、お客さんもその企業の商品やサービスを好きになります。売る側にとっても買う側にとっても良さがあるのがDXと言えますね。

地方だからこそDX推進に意味がある

地方の企業ではデジタル化が遅れています。しかし、デジタル化していないのにビジネスとして続いている企業があるのはすごいことなんです。これらの企業はデジタル化していない不利な状況にもかかわらず、事業を続けています。こういった企業がデジタル化を進めれば、デジタル化していない余白の分、さらに成長できることになります。デジタル化が遅れている地方だからこそ、DXの可能性を秘めているんです。

例えば…

錦鯉×DX

今までは人間が時間をかけて判別していた錦鯉の模様を、AIが写真から判別！



高校生のみんなへ いつの時代も若い人が未来をつくる

いつの時代も若い人は可能性があって、日本や世界の未来をつくるので、自信を持ってください。自分たちにしかできないこともたくさんあるし、未来は本当にひらけています。一度きりの人生、馬鹿みたいでもいいので夢を追いかけて後悔のないように生きていってほしいと思います。

取材をしてみて、起業家の方は発想が全然違うなという印象を受けました。新潟を良くしたいという思いがよく伝わってきました。

今回取材を担当した
高校生編集部 しんごくん

